

ふーどばんく OSAKA 通信

2014年2月号

大阪初のフードバンク拠点 活動開始!!

現在日本国内において年間2200万トンの食品が廃棄され、その中には食べ物として十分、 安全に食べられる食品がたくさん含まれています。反面、日本において経済的な問題、家庭問題 等で生活が困窮し十分な食事を摂ることのできない人たちが数多くいる事実があります。また児 童養護施設や障がい者施設、母子シェルターなど厳しい運営を強いられ、十分な食材を確保する 事ができない状況もあります。

このような団体・施設を支援するために企業・食品生産者などから無償で「食材」の提供をしていただき、上記の施設等に無償で「食材」を届ける「フードバンク」と呼ばれる取り組みが始まっています。

私たちふーどばんく OSAKA は企業と受け手側の団体・施設両者の絆を結ぶ架け橋となり、フードバンク活動を通じた福祉のまちづくり、社会福祉の増進を図ります。今後ともよろしくお願いいたします。

フードバンクとは

まだ安全に食べることができるにもかかわらず、さまざまな理由で市場性を 失い捨てられる食品。 フードバンクとは、「食料銀行」を意味する社会福祉活動 で、食品関連企業や量販店、農家、個人などから賞味期限内でまだ食べられる のに商品として流通できなくなった食品の寄贈を無償で受け、食べ物に困って いる人や施設などに無償で配布する活動のことをいいます。





赤井隆史 理事長のつぶやき



●日本のフードロスの現状

一般的にフード(食品)ロスとは、食べられるのに捨てられている食品のことです。

日本では大量の食品を輸入しながら、一方で大量に捨てているという現実があります。米の生産高が、2012年度約820万トンと報告されており、この数字と匹敵するほど廃棄されているこということになり、比べると、膨大な食品が無駄になっていることがよくわかります。つまり、生産した米の量以上に捨てられている食品があるというのが現実です。

東京のフードバンクの活動などを学ぶと企業の体質のようなものが垣間見られました。

●奉仕でなく無駄を最小限に

日本企業は、「困っている人たちへ食品を提供するという」 - いわば * 奉仕の精神 * からという 考え方が非常に強いように思われます。 つまりは、 利害を離れて社会のために尽くすという精神論が前に出た食品の提供という考え方です。

しかし、外資系の企業の考え方はどうも違うようです。もっとドライな考え方といった方が良いのか?「してあげる。してもらう」という考え方を排した関係をのぞんでいるようにわたしには思えます。

つまり、自分たちで製造した商品が出荷の段階になり、破損したり、何らかの理由で販売でき ないようになってしまった商品が、もう一度、日の目をみるためには、「なにか活用の方法はな いのか」「食べる分には不都合がないのに商品として販売できないとは・・・」といった生産者 の廃棄したくないという思いが、「じゃあ、食べ物を必要としている人に無償で届けよう」と始 まったのが、フードバンクの活動であると思っています。かわいそうな境遇にある人たちへ食品 をという奉仕の考え方ではなく、製造したものが、廃棄されることなく最後まで無駄を最小限に 止める方法のひとつとして登場した考え方だと強調します。

●食品を最後まで有効活用する仕組みを

それこそ、「MOTTAINAI (もったいない)」だと思います。製造して生産したものが社会に流通する。それは、生産者から消費者へ文字通り、滞りなく流れていくという市場経済の仕組みそのものである。その一部にどうしても流通させることの出来ない商品が生まれ、従来それが廃棄という生産者にとっては屈辱的な処分方法でしか対処できなかった。それなら食品として口に入れることにおいては、何の問題もない食品を社会にもう一度環流させる仕組みとして広がってきたのが、フードバンクの活動です。つまり、市場としては成り立たなかった商品をもうし度、再生され有効利用させる。生産者一消費者という関係ではなく、生産者一受益者という関係として成立し、社会の仕組みとして環流されていくという新たな、食を通じた流通の仕組みです。

もっといえば、「余ったからあげる」のではなく、生産した物を最後まで「有効活用」する仕組みです。だから、提供する企業も"してやってる"のではありません。"社会に役立て"ているのだと思います。生産者一受益者との立ち位置が、ウイン・ウイン【WIN・WIN】の関係となり、双方にメリットをもたらすこととなります。

[゛]その橋渡しをNPO法人「ふーどばんくOSAKA」が ┃ 担おうと結成されたのです。

' 協力と支援を呼びかけます。

みんなの広場



ボランティアに参加した方、食品を提供してくださった方・受け取った方など皆 さんからお寄せいただいたお声をご紹介します!!

はじめてのボランティア。楽しい時間でした。

はじめまして!ふーどばんく OSAKA で、駆け出しボランティアの T です。

本日、二度目の配達に行って参りました。

食品を提供してくださる企業の皆様と、必要とされている方たちの橋渡しとして、フードバンクの活動はとても有意義だと思います。これからもマイペースでお手伝いができれば私自身もいい経験になる事でしょう。

本日は美味しそうな冷し中華のタレをお届けしました!







施設より、心温まるお手紙を頂きました。

拝啓、寒さが次第につのり、そろそろ紅葉の季節を迎えますがいかがお過ごしでしょうか。ふっどばんく OSAKA の皆様におかれましては益々の御清栄のこととお慶び申し上げます。平素より私どもの施設の子ども達に温かい御支援を頂きまして誠にありがとうございます。

この度はスモークチーズを御寄贈頂きましてありがとうございました。子ども達の中にはスモークチーズを初めて見る子もたくさん居まして、「これ、ウィンナー?」といった質問をする子も数人見られました。その時に施設で生活している子ども達の経験の少なさを知ることのできる良い機会となりました。偶然ではありますがそんな機会を作っていただいたふーどばんく OSAKA 様にとても感謝しております。同時に子ども達には自立に向けてたくさんのことを経験させてあげたいと感じております。

現在当施設 31 名の子ども達は、2 学期も中盤に入り、勉強に遊びに部活に進路にと、それぞれのやるべき事を頑張っている為、私達職員はそのサポートに力を尽くしていく所存でございます。 これからもふーどばんく OSAKA の皆様をはじめ、御支援頂いている方々のお気持ちを支えに職員一同頑張って参りますので今後とも、ご指導・御支援賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

末筆となりましたが、ふーどばんく OSAKA の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、お礼のご挨拶とさせて頂きます。

<u>-A--A--A--A--A--A--A--A--A--A--A--</u>

集まれ!! ボランティア

1 周年を迎えるにあたり、ボランティア体験デーを企画しました。 □ お気軽にご参加下さい!! 詳しくは、メールもしくはお電話ください。

〇日 時 3月1日(土)、3月29日(土) いずれも10時集合

(配送が終わりしだい順次解散 (4時ごろ))

○集合場所 ふーどばんく OSAKA (堺市東区八下町 1-122)

〇内 容 オリエンテーリング、食品の仕分け、・施設への配送、報告